

【用語集】

○アセットマネジメント

資産を効率的に管理すること。水道においては、「水道ビジョンに掲げた持続可能な水道事業を実現するために中長期的な視点に立ち、水道施設のライフサイクル全体にわたって効率的かつ効果的に水道施設を管理運営する体系化された実践活動」を指す。

○管路経年比率（かんろけいねんひりつ）

計算式：法定耐用年数を経過した管路延長／管路延長×100

法定耐用年数を超えた管路延長を表す指標で、管路の老朽化度合を示している。

○管路更新率（かんろこうしんりつ）

計算式：当該年度に更新した管路延長／管路延長×100

当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標で、管路の更新ペースや状況を把握できる。

○企業債残高対給水収益比率（きぎょうさいだんだかたいきゅうすいしゅうえきひりつ）

計算式：企業債現在高合計／給水収益×100

給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標。

○給水原価（きゅうすいげんか）

計算式：（経常費用－長期前受金戻入）／年間総有収水量

有収水量1 m³当たりどれだけの費用がかかっているかを表すもの。

○供給単価（きょうきゅうたんか）

計算式：給水収益／年間総有収水量

有収水量1 m³当たりどれだけの収益を得ているかを表すもの。

○経常収支比率（けいじょうしゅうしひりつ）

計算式：経常収益／経常費用×100

当該年度において、給水収益や他会計からの繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているのかを表す指標。普通会計の経常収支比率とは異なり、100%以上が必要とされており、100%を下回ると、何らかの財源手当が必要となる。

○施設利用率（しせつりようりつ）

計算式：一日平均配水量／一日配水能力×100

一日配水能力に対する一日平均配水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断する指標。

○スペックダウン

将来のサービス水準等の予測を踏まえ、更新後の施設・設備の性能（能力、耐用年数等）の合理化を図る手法のこと。

○ダウンサイジング

水需要減少や技術進歩に伴い施設更新などの際に、施設能力を縮小し、施設の効率化を図ること。配水池の縮小や、管路更新時の小口径化が考えられる。

○補填財源（ほてんざいげん）

資本的収支において、建設改良費の支出などが収入を上回る場合の不足分を補うための財源。主に、減価償却費や利益から積み立てた減債積立金などがこれに該当する。

○PDCA サイクル

Plan(計画)→Do(実行) →Check(評価) →Action(改善)の4つのステップで、業務の品質や効率を高めることを目的とした業務管理手法。

○有形固定資産減価償却率（ゆうけいこていしさんげんかしょうきゃくりつ）

計算式：有形固定資産減価償却累計額／有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価×100

有形固定資産のうち、償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標で、資産の老朽化度合を示している。

○有収水量（ゆうしゅうすいりょう）

料金徴収の対象となった水量及び消防用水などの他会計から収入のあった水量。

○有収率（ゆうしゅうりつ）

計算式：年間総有収水量／年間総配水量×100

施設の稼働が収益につながっているかを判断する指標。

○流動比率（りゅうどうひりつ）

計算式：流動資産／流動負債×100

短期的な債務に対する支払能力を表す指標。

○料金回収率（りょうきんかいしゅうりつ）

計算式：供給単価／給水原価×100

給水原価（水の供給にかかる費用）を、供給単価（利用者からの水道料金）でどの程度賄えているかを表す。100%以上が望ましい状態であり、100%を下回っている場合は、料金収入だけでは足りず他の財源に頼っていることを意味する。

○累積欠損金比率（るいせきけつそんきんひりつ）

計算式：当年度未処理欠損金／（営業収益－受託工事収益）×100

営業収益に対する累積欠損金（営業活動により生じた損失で、前年度からの繰越利益剰余金等でも補填することができず、複数年度にわたって累積した損失のこと）の状況を表す指標。